

水の文化 水商売の

理

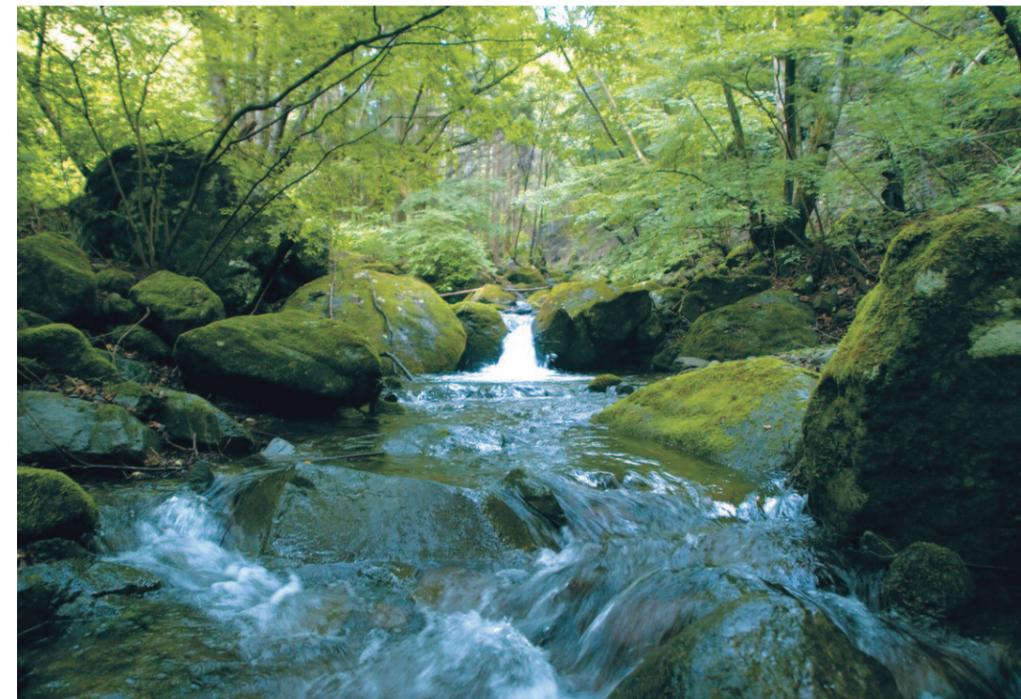
ことわり



山本一力「江戸の水売り」
 村上雅博「水はただではないという文化」
 サントリー「現代の水商い企業」
 ウェルシィ「地下水ビジネスで広がるか 分散型水工場」
 水の文化楽習実践取材
 「県境を越えて共に育み 流域の資源を守る」
 横浜市水道局「公営企業 水道局の総合力」
 高松市水道局「渇水地における水道ビジネスの難しさ」
 宮田章司「水売りの声」
 編集部「水商売の理」
 古賀邦雄 水の文化書誌「水の商品化」

水の文化 July 2006 No. **23**

水の文化
2006
23



ミツカン水の文化センター

表紙上：横浜市が発売している「はまっ子どうし」は、水源である道志川の上流から採水して製品化したもの。キャップには横浜市水道局キャラクター「はまピョン」。彼は1995年（平成7）、道志村のきれいな川のそばで生まれたそうだ。

表紙下：東京の恵比寿駅には金色の恵比寿様が福々と街を見下ろしている。商売の神様は、西は戎（えびす）、東は酉（とり）。

裏表紙上：道志川の北を流れる朝日川源流。まったく人の手が入っていない森の水に魅力を感じてしまうのは当たり前。でも、それだけでは水道をまかなうことはできない。守り、育む志が、多くの森で求められている。

裏表紙下左：水道局を企業として見ることに馴染みがないが、立派な公営企業なのである。しかし同じ距離の水道管を維持する労力は変わらないのだから、人口減少が避けられないこの先、何らかの解決策が求められるかもしれない。

中：日本の近代水道は、イギリス陸軍の退役少将だったヘンリー・スペンサー・パーマーが指導して、1887年（明治20）に敷設したことに始まる。横浜の日ノ出町には、100年の時を刻んだ水道管が遺構として今も残されている。パーマーは中国や香港でも水道敷設に貢献し、横浜の歴史にも名を運ねることとなった。

右：長押（ながし）に掛けた熊手や宝船。きっちと高いしていれば、翌年は一回り大きな熊手に出世させられるに違いない。

